



## 記録管理学会 2012 年研究大会終わる 大会テーマ 記録管理の哲学と実務

記録管理学会(1989年創立、会長山崎久道中央大学教授)は、去る5月25、26日の2日間、東京・八王子にある中央大学多摩キャンパスを会場に、研究大会を開催した。基調講演「記録管理の精度と実務—公文書管理法施行1年を経て」は、内閣府公文書管理委員会委員の野口貴公中央大学教授。プロジェクト成果発表2本、研究発表5本、計7本の発表が行われた。発表はいずれも大会テーマ「記録管理の哲学と実務」とのかかわりが明確であり、公文書管理法施行1年というこの時点での会員の研究関心が大会テーマによりまとまりが見られたことは、特記すべきであろう。閉会式では、新たな試みとして、大会実行委員長声明の発表が行われた。

### 2012年研究大会閉会式での大会実行委員長声明

2011年4月、記録管理学会にとっても積年の懸案であった公文書管理法が施行にさ移された。その直前に日本を襲った東日本大震災は、地震、津波などの自然災害とともに、原発事故による放射能汚染という長期的かつ克服困難な状況がもたらされた。この困難な状況の中で、人々は遭遇した事象や困難を未来に伝えるために、記録を作り、記録を残し、記録を伝える努力を重ねている。大震災の記録を永遠に残すことは昨年5月、東日本大震災復興構想会議が打ち出した「復興構想7原則」の原則1でも強調されている。

記録管理学会 2012年研究大会は、5月25日、26日の二日間にわたり、中央大学多摩キャンパスを会場に、会員及び関係者xx名の参加を得て、記録を作り、記録を残し、記録を伝えるために、記録管理が「なぜ」必要なのか、記録管理は「何のため」、「どのように」に行われるのかについて、議論を行い、次の各点を大会の成果として確認した。

1. 記録を作らなければ、事実は記憶の外に消滅してしまうこと
2. 記録を残すには、そのための意図的な努力と確固たる制度が欠かせないこと
3. 残された記録は、適切なアクセスの方法が準備されなければ、利用が不自由になること
4. 記録を長く残し続けるには、さまざまな技術とともに、そのことを是とする哲学が求められること
5. 災害による被害を減らすためには、過去の記録を適切に評価し、それぞれの時点において過去の教訓を生かすこと
6. 個人であれ、組織であれ、記録の作成、維持管理、保存について、必要十分な知識と、残そう、伝えようとする意思をもつことが、将来にわたっても、これまでの経験を確実に生かす生活態度を醸成するであろうこと。

これを踏まえ、記録管理学会 2012年研究大会は、記録管理についての認識の向上、とりわけその理念への理解を社会で増進することが、震災復興にむけた記録管理学会の新たなミッションとなることを認識し、今後は会員はそのために研究調査を行い、一般の人々に対して記録管理が立脚するものの考え方と技術、すなわち記録管理の哲学と技術を普及することに一層努めることを宣言する。

2012年5月26日

記録管理学会副会長  
2012年大会実行委員長  
小川千代子

### おもな内容

DJIレポート No.90 20120614

記録管理学会大会声明……………1	消息聞き……………5
突撃！モンゴルの国立記録管理院+アーカイブセンター…2	あしあと／活動……………5
アーカイブの看板@ベルリン(転載)……………4	巻末随想……………6

## 突撃！モンゴル国立記録管理院＋アーカイブセンター

3月28日、ウランバートルで

小川千代子

3月27日から4月1日までの7日間、モンゴル・ウランバートルを訪れた。仕事で現地に長期滞在することになった家族の「付添」が名目。実際のところは毎日、日中は一人でウランバートルの街を端から端までトコトコ歩き回り、観光にいそしんだ。その初日、3月28日はアポなしでモンゴル国立公文書センター「突撃」を敢行した。以下はその顛末。

### <下調べ>

出かける前の日まで、実はモンゴルの **national archives** をウェブで調べあげ、英語の説明はほとんどすべて目を通すという、熱のこもった予習をした。この国では、国レベルでは「記録管理院」とでも呼ぶべき役所組織と、閲覧室を備えたアーカイブ・センターの2つの組織がある。それぞれの組織のトップは顔写真付で挨拶文を掲げている。二人とも、昨年秋東京で開催された EASTICA で見かけた人であるように思われた。

### <二つのナショナル・アーカイブ>

下調べで見つけたウェブのプリントアウトを携え、私はウランバートルに来た。この資料では、二つの **National Archives** の業務内容等々は英語でかなり詳しく説明されていた。特にアーカイブ・センターの方は、部門ごとに行政の記録類を集約的に保存し、利用提供する役割を帯びていると理解した。「記録管理院」の方は、お役所としての役割が列記されていた。内容は、どの国でもある程度共通していると考えてよい。私にとっての当面の問題は、その二つの公文書館がどこにあるのか、ということだ。公文書館を見つけるにはどうすればいいのだろうか。

### <地図が読めない>

持参した資料の中にはモンゴル語表記の簡単な地図があった。これはキリル文字で表記されているうえに、住所に該当する記述はない。他方、英語資料には二つのナショナル・アーカイブの建物写真があったが、地図はない。表記された住所はといえば、固有名詞まで英訳されている。例えばウランバートル一番の大通は、地球の歩き方でも、日本語で「平和通」と記述されており、現地語との対応がつかないという状況だ。というわけで、手持ちの地図ではその場所を特定する手がかりがない。もちろん、日本から持参したモンゴルのガイドブックにはアーカイブの記述などない。

ここで役に立ったのは、インターネット上のグーグルマップだった。グーグルマップという今日的文明の利器は、なかなか優れモノ。なぜかジップコード（郵便番号）から地域を絞り込むアプリ

ケーションが添えられていたので、これを使って場所の絞り込みができた。その結果、アーカイブがあるところが私の宿舎のすぐ近所らしいことが見えて来た。実は、そんなこんなで半日がすぎた。

### <いざ出発>

ようやく意を決して、キリル文字表記の簡単な地図と、建物の写真付きの英語資料を手に、宿舎のフロントに行って聞いてみた。フロントの女性が、「すぐウラですよ。となりがホテルになっている建物だから」と教えてくれた。この言葉に力をもらい、一人ウランバートルの町を歩き始めた。

とはいえ、ここでは言葉が分からない、字が読めない、地図もあまりあてにならない。いわば見えない、聞こえない状態なのだが、それでも、この国のアーカイブを一目見たくて、気持ちちはやる。宿舎の左側の大通りを少し左に歩くと、「らーめん」という看板があった。入口はガラス戸なので、中が見える。日本のラーメン屋と同じような雰囲気にも見えた。帰りに、ここで食べよう、そう思って通り過ぎた。

ラーメン屋の少し先に、役所の建物の入り口と思しき通路があった。トコトコと中に入ると、前庭が駐車場になっていて、**national** なんとかという英語の看板が見える。近くによってよく見たら、国立統計局と書いてあった。ありゃー。これは、アーカイブじゃない。ちょっとがっかりして、その場を後にした。

元の道に戻り、次の角を左に曲がると、なんだかごちゃごちゃした狭い通りがあった。通りの向こうには、広場が見える。右側には古いビル、左側にはやや最近っぽい劇場のような建物がある。道は両側にびっしり車が止まり、狭くなった道を車が行き交い、人はその間を好き勝手に歩き回っている。もちろん私もその一人。

### <発見！“記録管理院“>

しばらく見ていたら、右側の古い黄土色のビルの入口にどうも「アルヒーフ」（ロシア語のアーカイブに当たる言葉）と思われる文字がある看板がかかっているように思われた。もってきた英語と

建物写真のある資料と首っ引きで確認したところ、どうやら下調べでみついていた、あの“記録管理院”らしい。時間は昼休み、ちょっと日差しも暖かいのか、その入口ドア脇には、オバサン達がたくさんたまっていた。(写真1)

#### <親切なオバサンたち>

私はここでオバサンたちに突進した。キリル文字モンゴル語の資料を取り出し、たまっていた叔母さんたちに、英語できますか？とおずおず尋ねた。ダメだった。しかし、それは本来の目的ではないから、私はさらにたたみかけた。「アルヒーフ、探してるんですけど…」と手にした地図を示したら二人のオバサンが立ち上がって、向こうの方を

指さして一生懸命何か言ってくれた。要するに、あっちの方なんだろうということは、私にもわかった。で、「どうもありがとう。」とこれも日本語でお礼を言って、私は指さされた方向に歩いて行った。建物のわきを入ると、道は未舗装で、くねくねと入り組んでいて、外側のビルが立ち並ぶ様子とは打って変わってしまった。それでも車は入ってくるし、人々は好き勝手に歩き回る。インターネットと読めるキリル文字の看板を眺めつつ、さっきの建物を背中にその裏路地をしばらく北上すると、大通りに出た。それを左に曲がると、白っぽい古い建物があった(写真2)。立木の様子からみて、アーカイブ・センターだ！ (次号に続く)



↑【写真1】モンゴルの「国家記録管理院」 【写真2】モンゴルの国立アーカイブ・センター↓



## ◆千代子と散歩 アーカイブの看板@ベルリン

小川 千代子



2月末にベルリンにすむ子供夫婦を訪れた。私的な旅行で、なんら仕事からみの目的はなかった。

だが…、到着した翌日の午後宿舎を出てほんの5分も歩かないうちに、とある白い建物の看板に Archiv (アルヒーフ)の文字を発見してしまった(写真①, ③)。場所は川沿いの橋のたもと。窓から中を見たら、どうやらここは事務用品什器類のショールームのようだった。会社の名前は Scheidt GmbH & Co. (シャイト社)で、筆者が目奪われた Archiv の文字は、下の段左端の für Büro+ Lager+ Archiv の末尾に置かれていた。これ、多分オフィス・保管・保存用品；という意味だと思う。

想像をたくましくするなら、看板には文書のライフサイクルがそのまま掲示されているのだろうか。日本では事務用品というと現用範囲、アーカイブというと「歴史公文書等」など時間的にも空間的にもはるかに隔たったものをイメージさせられがちだが、どうやらドイツ語の Archiv は事務所内の長期保存も意味すると見えた。壁に掲示された URL をたどったら、写真②が見つかった。

<http://scheidt-berlin.de/>

蛇足ながら、写真④は数年前神奈川県下で見つけた文具店の看板。この看板には書類の作成に必要な用具用品は「何んでもご相談」とあるが、どうも保管、保存という概念はみえない。なお、この文具屋は現存しない。昭和の文具屋さん、だった。(以上 小川 千代子 記)



写真①



写真②



写真③



写真④

この記事は記録管理学会ニュースレターNo.58 から転載。NL 編集氏の愛情あふれる編集レイアウトのおかげで、通りがかりに見つけた看板に「アーカイブ」の文字を見つけただけの話がそれなりの記事になる。編集の妙だ。ありがとうございました。(ち)

## ◇◆◇アーキビストの消息(聞書含・順不同)◆◆◇【凡例:●個人■機関】

4月1日付

- 群馬県立文書館長 富岡 守氏→岡田 昭二氏
- 大澤 肇 氏 中部大学国際関係学部講師(東洋文庫)
- 研谷 紀夫 氏 関西大学総合情報学部准教授(東京大学特任准教授 [非常勤])
- 古賀 崇 氏 天理大学人間学部准教授(京都大学准教授)
- 森本 祥子氏 江東区役所(学習院大学助教)
- 阿部 純氏 福山大学人間文化学部メディア情報文化学科 助教(東京大学特任研究員)
- 小林 直子氏 国立国会図書館 収集書誌部主

任司書 IFLA/PAC アジア地域センター長(国際子ども図書館)

●今井 紀雄氏 草加市長室長

3月31日付

- 中村 規子氏 退職(国立国会図書館収集書誌部司書監 IFLA/PAC アジア地域センター長)
- 高木 正治氏 退職(愛知県公文書館)
- 高橋 実 氏 退職(国文学研究資料館)
- 三浦 喜代氏 退職(板橋区役所)
- 鹿島 晶子氏 退職(国立公文書館)

## ●特集 千代子のあしあと●◆▽●◆●●図書◆論文▽逐次刊行物■その他●◆▽●◆

▽DJIレポート No.89 2012年4月12日アップ、4頁、PDF版は Web 国際資料研究所 [www.djichiyoko.com](http://www.djichiyoko.com)

■『新文書館についての意見・提言』松本市文書館界地区市民懇話会、平成24年3月(副会長)

■「アーカイブの看板」「基礎自治体の公文書館設置率は1.1%に」「3月14日 国立国会図書館シンポジウム」記録管理学会ニュースレターNo.58 2012.4.1発行 15頁、DJIレポートNo.90に再掲。

●報告書 DJI セミナー チェルノブイリからの伝言 ―ヒト・放射能・資料― 神戸大学大学院人文学研究科国際資料研究所(DJI) 2012.3発行、A4判 82頁[科学研究費補助金基盤研究(S)大規模自然災害時の資料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築(研究代表者 奥村弘 課題番号:21222002)]

## DJI国際資料研究所の主な活動 2012年4月1日~2012年5月31日

## &lt;執筆&gt;

- ・『DJIレポート』No.90 20120601発行
- ・歴史散歩参加記、『三丁目町内会ニュース』No.8、2012.5.20刊、藤沢市辻堂東海岸3丁目町内会

## &lt;起草&gt;

- ・2012年大会実行委員長声明、記録管理学会大会

## &lt;出講&gt;

4月12,19,26日、5月10,17,24,31日、中央大学文学部「記録管理論」+大学院

4月17,24日、5月1,8,15,22日、東京女子大学「アーカイブの世界」

## &lt;定期訪問&gt;

4月25日、5月22日、東京大学史料室

## &lt;企画開催&gt;

5月25,26日 記録管理学会 2012研究大会、中央大学多摩キャンパス、東京

## &lt;見学&gt;

- 5月15日 東京女子大学新渡戸記念室、東京
- 5月25日 中央大学国際機関資料室、記録管理学会研究大会見学会、東京

## &lt;参加&gt;

4月6日 公文書管理検定対策講座打合せ、日本経営協会、東京

4月7日、5月12日、アーカイブの世界研究会 08,本郷

4月8日 辻堂歴史散歩、伊勢山公園、遊行寺宝物館、感応院他、藤沢市内。

4月14日 学習院大学「記録保存と現代」講師打合せ、非常勤講師歓迎会、学習院大学他、東京

4月15日、5月20日 辻堂東海岸3丁目防災まち歩き、鶴沼運動公園他、藤沢市辻堂地域。

4月19日,27日、5月14日,25-26日 記録管理学会理事会、大会実行委員会、研究大会、中央大学多摩キャンパス、八雲クラブ他、東京

4月29日 びぶんれん京都ランチ、なかひがし、京都

5月5日 原発国民投票署名集め、片瀬江ノ島海岸

5月19日 緑の広場清掃、辻堂東海岸3丁目、藤沢

5月27日 図書館総合展東日本大震災の記録を残す 東北大学、仙台

5月29日 心の虫干しクラブ、本郷

5月29日 政策研究大学院大学図書館、東京

## &lt;鑑賞&gt;

4月27日 エンロン 銀河劇場、天王洲アイル、東京

## ■巻末随想

### ■「」芝居「エンロン」鑑賞

●4月27日に、昼の部公演で、芝居「エンロン」を見た。エンロンと言えば粉飾決算で知られ、米国企業の記録のありかたを根底から揺るがし、アーサー・アンダーセン会計事務所が閉鎖に追い込まれたほか、経済に与えた影響はその後のリーマンショックにつながるものであった。

●この出来事が、今演劇になって人々に問題を問いかけてようとしているところが気になって、この舞台を見に行った。芝居そのものが面白いとか、できがよいとかいうことは、日ごろから見ているわけではないから、ぜんぜんわからなかった。

●しいて言うなら、リーマン・ブラザーズの双子のような男二人が現れて、エンロン社長に言われるままに、ずるずると融資の応じるどころとか、アーサー・アンダーセンという監査法人の担当者が腹話術を使って、「書類はすべてシュレッダーにかけたから大丈夫」「シーツ」などと秘密を漏らすシーンは、印象深かった。こういう話は、記録管理分野でしばしば耳にしていたので、それを舞台上で演じて見せてくれると、なんだか知ってることのように思われるのが、面白かったのかもしれない。

●もう一点印象に残ったのは、エンロンの初代社長が後継者を選ぶにあたり、自分とよく似た考え方をする女性役員(で、愛人)を排除し、自ら天才的頭脳を持つと言いつつ別の役員を抜擢するという意思決定のありようは、米国風なのだろうか、興味深かった。日本で同じ場面があると、多分愛人を後釜にすえたがる男が多いんじゃないだろうか。

●さて、芝居の細かいシーン一つ一つはともかくも、エンロンが芝居の演目となり、そのような形で粉飾決

算が犯罪として人口に膾炙するようになったことに、私はひどく感銘を受けた。芝居の中では、勧善懲悪という価値観が生きているように思えて。。多分、芝居の面白さというのは、そのときだけは、観客が望む「正しい世界」が舞台の上に繰り上げられることが魅力なんだろう。私も、そのところは気に入った。でも、率直なところ、全体を通じての感想をいうなら、あまり面白くなかった。

### ■「」アーカイブを教えて15年

●非常勤講師としてアーカイブを教えはじめて16年目になる。月日の経つのは早いものだ。おしえたヒトの何人かがこの春、大学の先生として就職した。もちろん、専門が違うから、アーキビストが育ちました、というわけではない。でも、アーカイブの事を知った上で先生になるって、そうでないよりもずっと、時間軸で見る世界の広がりが大きくなるだろうと期待している。

●最初に非常勤講師になったのは学習院大学総合基礎科目「記録保存と現代」。三笠宮彬子様が学生として教室におられたときもあった。今では大学院アーカイブズ学専攻がある。

●今もご縁あって、4月14日学習院大学非常勤講師の「歓迎会」に参加した。参加者の自己紹介を聞いていたら、新しく講師に招かれた若手の先生方とは、知らないところでいろいろなご縁があるらしいことが分かった。前からの先生方とは、結構顔見知りだし、これは実に「Small world!」だと思う。そして、自分がかかりの「シニア」になっていることを改めて自覚した。もう古希までひとケタになってるし。。

●若い皆様、どうぞこれからをがんばってください。

(ち)

Documenting Japan International Report 国際資料研究所報 ISSN 1342-632X

DJIレポート

DJIホームページ: <http://www.djichiyoko.com>

No. 90 20120614

発行所: 国際資料研究所 Documenting Japan International 代表 小川 千代子

〒251-0045 神奈川県藤沢市辻堂東海岸3-8-24 fax+ phone 0466-31-5061 DJI ブログ: <http://djiarchiv.exblog.jp/>

DJIメル友速報は、DJIレポートの無料メルマガです。配信ご希望の方はお申し込みください。Email: [djiarchiv@ybb.ne.jp](mailto:djiarchiv@ybb.ne.jp)